

日本語教師研修のために インドネシアから来日した アリアニ・ナルワストウジャティさん

Ariani Narwastujati
高校教師



アリアニ・ナルワストウジャティ●インドネシア生まれ。2004年からジョグジャカルタの高等学校で日本語を教える。2008年4月、ジャパンファウンデーション日本語国際センターで行なわれた52日間の「インドネシア中等教育日本語教師研修」のために初来日

撮影：高木あつ子（下も）

ア

リアニさんは、今年4月に初来日。ジャパンファウンデーション日本語国際センターでの52日間の「インドネ

シア中等教育日本語教師研修」に参加しました。ふだんはジョグジャカルタのボブクリ第二高校で7時から10時15分まで日本語を教えたあと、11時から16時はパートタイムの仕事、17時から20時まで自宅で英語を教えながら、2人の息子のお母さんとして育児に奮闘しています。そんな多忙な彼女ですが、日本語教師の仕事は趣味でもあると言います。

「日本は素敵な国。まだ日本語に問題もありますが、教えながら日本語を話す練習ができること、学生の成長を手伝えることが楽しいです」インドネシアでは近年、日本語学習者が著しく増加しています。そのインドネシアの日本語教育について、アリアニさんは「今までのインドネシアの日本語教師はいろいろな学歴を持っています。教師の質もさまざまで、わかりやすく楽しい授業ができる先生は少ない。学生は日本語が難しいと思っています」と話します。

日本語の好きな言葉は「がんばります」だというアリアニさん。研修では授業にも日本人との交流にもとても積極的で、日本語につきましても伝わるまでとことん話します。この研修中に撮った写真はざっと600枚。

「この研修でいろいろな経験をし、人生を豊かにして、質のよい先生になりたい」



日本語国際センター（埼玉）で専任講師による日本語の授業を受けるアリアニさん。この日は趣味・余暇をテーマに勉強した

アリアニさんの勤務するボブクリ第二高校では、1年生から3年生まで全員が週1時間、日本語の授業を受けています。2年生からは週5時間の日本語の授業を受けるコースもあります。アリアニさんを通して日本について知るインドネシアの学生がたくさんいます。

アリアニさんの目に日本がどのように映り、インドネシアの学生にどのように伝わるのか、アリアニさんに接するとき、身の引き締まる思いがします。☺（石井亜矢子）